

令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣調査の結果について四国中央市の小学5年生の状況についてお知らせします。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査について

1学期に学校の体育の時間等に行われる調査である。全ての学年で実施しているが、全国集計されるのは小学5年生、中学2年生だけである。小学生の実技種目は、「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「反復横とび」「20mシャトルラン」「50m走」「立ち幅跳び」「ソフトボール投げ」の8種目。その他、運動習慣について問う質問紙調査も行われる。※令和2年度は実施していない。

1 体格・実技の状況

【体格】

男子はおおむね全国平均と同じである。肥満度は適切な層が比較的多い。

女子は全国平均に比べて体重が少し軽い状態にある。肥満度は標準的である。

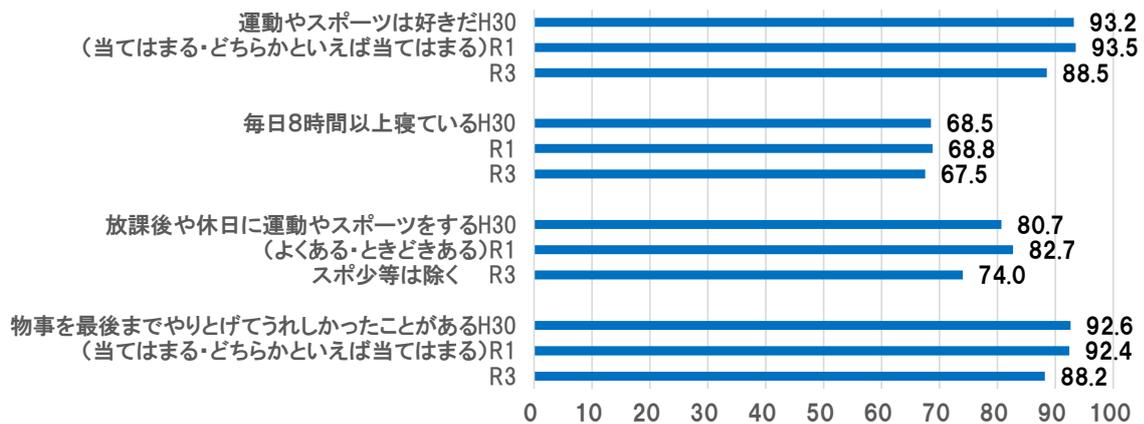
【実技】

男子は全体的に体力が低い傾向にある。各種目とも全国平均を下回っている。ソフトボール投げはやや全国平均を下回った。立ち幅跳び、反復横跳び、20mシャトルラン等は大きく課題がある。

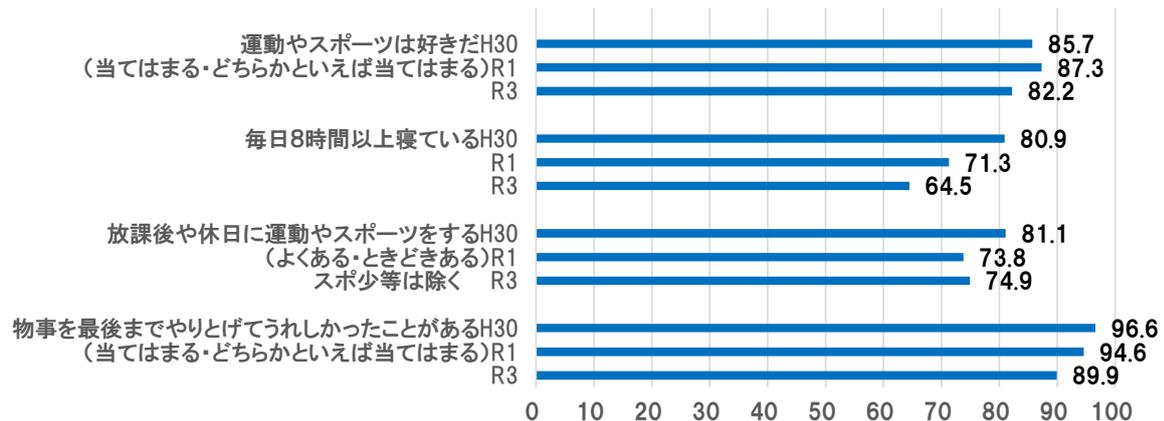
女子はやや体力が低い傾向にある。20mシャトルラン、立ち幅跳び、ソフトボール投げはおおむね良い結果である。握力は大きく課題がある。

2 児童質問紙より

小学校(小5男子)



小学校(小5女子)



【質問紙】

令和元年度と比較すると男女とも、4項目全てで低下している。特に男子では、家庭での運動量、女子は睡眠時間の項目の減少量が多く課題がみられる。男女ともに「運動が好きだ」と答えた児童は減少しているが全国平均とほぼ同じであり、コロナ禍での社会生活の変化の影響が感じられる。

【全体的な分析】

男子は、体格もやや小さい傾向にあり体力テストについてはやや不利な面がみられるが、意欲を伸ばす中で体力アップを図りたい。以前からの課題であった「投げる」については改善が進んできつつある。以前から課題の柔軟性はまだ改善の余地があるので取り組みを継続していきたい。

睡眠時間や、家での運動習慣等について、家庭でも良い習慣づけができるようにご協力いただけるとありがたい。

各校では各校のデータに基づいて「体力アップ推進計画」を作成して、それぞれの課題に合った取り組みを進めている。